

政務活動費収支報告書

令和 3 年 10 月 29 日

富士宮市議会議長 小松快造様

会派名称 令和

代表者氏名 深澤 竜介

令和 3 年度の政務活動費に係る収入及び支出について、下記のとおり報告します。

記

1 収入
政務活動費 600,000 円

2 支出



項目	金額 (円)	主たる支出の内訳
資料作成費	0	
資料購入費	6,503	書籍代
会議費	30,470	研修会参加
事務費	0	
調査旅費	0	
その他経費	0	
合計	36,973	

3 残 額 563,027 円

令和3年10月29日、会派解散に伴う精算（深澤議員は無会派へ、近藤議員は会派キセキへ）

（精算額及び交付申請額に算出）

563,027 ÷ 2人 = 281,513円 （1人あたりの精算額）

深澤議員は、281,513円分を無会派で交付申請する。

近藤議員は、281,513円分をキセキで交付申請する。

第3号様式（第2条関係）

会派解散届

令和3年10月29日

富士宮市長 須藤秀忠 様

会派名称 令和
代表者氏名 深澤竜介

会派を解散したので、下記のとおり届け出ます。

記

1 会派の名称 令和

2 解散年月日 令和3年10月29日

令和 3 年度 政務活動費現金出納簿

(単位:円)

月	日	項目	内 容	収入金額	支払金額	残 高
4	1	政務活動費	政務活動費2人分 深澤竜介、近藤千鶴	600,000		600,000
5	21	会議費	富士市・静岡市・富士宮市の 議員研修会会場使用料		6,250	593,750
6	29	資料購入費	図書購入費		6,503	587,247
10	21	会議費	「第26回清溪セミナー」オンデ マンドセミナー参加費		24,220	563,027
						563,027
						563,027
						563,027
						563,027
						563,027
						563,027
						563,027
						563,027
						563,027
						563,027
						563,027
						563,027
						563,027
						563,027
			合 計	600,000	36,973	563,027

収入金額	600,000 円
支出金額	36,973 円
差引残額	563,027 円

第2号様式（第2条関係）

会派変更届

2021年7月6日

富士宮市長 様

会派名称 令和
代表者氏名 深澤 竜介

会派に変更があったので、下記のとおり届け出ます。

記

区分	変更前	変更後
会派の名称	令和	令和
代表者	深澤 竜介	深澤 竜介
経理責任者	近藤 千鶴	近藤 千鶴
所属議員	深澤竜介 中村憲一 近藤千鶴	深澤竜介 近藤千鶴

2021年度 令和 年間計画

1, 先進地視察（調査事項）

- ①環境（河川環境・再生可能エネルギー）
- ②福祉一般
- ③防災・減災
- ④観光（地域活性化事例先進地）
- ⑤教育（先進的自治体・教育振興事業）

2, 研修会

- ①議員研修・オンラインセミナーの参加
- ②各種学会主催の講演会への参加
- ③その他

3, 資料等購入

- ①議員活動関連書籍等の購入

4, 調査費・資料作成費

- ①議員活動関連調査費
- ②調査結果作成費

5, 事務用品購入

- ①筆記用具等・文房具全般
- ②その他

令和

代表 深澤 竜介
会計 近藤 千鶴

第5号様式（第4条関係）

政務活動費交付決定通知書

富行第1号の2

令和3年4月1日

令和

代表者 深澤 竜介 様

富士宮市長 須藤 秀 氏

令和3年4月1日付けで申請のあった政務活動費の交付について、
下記のとおり決定したので通知します。

記

令和3年度交付決定額 60万円

令和3年4月1日

令和3年度 令和 年間計画

1. 先進地視察（調査事項）

- ① 環境（ごみ減量・省エネ支援事業・自然エネルギー等）
- ② 産業振興（農業振興・商品開発・林業資源活用・観光振興等）
- ③ 教育（小規模校対策・先進的自治体・教育振興事業）
- ④ 医療政策（公立病院経営・市民活動）
- ⑤ 行財政改革（先進自治体）
- ⑥ 福祉政策（障害者雇用）

2. 研修会

- ① 議員研修・セミナー等への参加
- ② 各種学会主催の講演会への参加
- ③ その他

3. 資料等購入

- ① 議員活動関連書籍等の購入
- ② 自治体情報月刊誌の購入
- ③ 市内地図等の購入

4. 事務用品購入

- ① 筆記用具等・文房具全般
- ② その他

令和

代表者
会計

深澤竜介

近藤千鶴

NO.

収 入 伝 票

項 目	政務活動費
金 額	600,000 円
内 容	政務活動費 2人分 氏名 深澤 竜介、近藤 千鶴
収 入 先	富士宮市長
収 入 年 月 日	2021 年 4 月 1 日
摘 要	

支 出 伝 票

項 目	会議費
金 額	6,250 円
内 容	富士市・静岡市・富士宮市の議員研修会会場使用料
目 的	富士川の河川環境の現状を把握し課題を共有するため
支 出 先	富士川まちづくり株式会社
支払年月日	2021年5月21日
その他特記事項 (参加者・人数等) 深澤竜介・近藤千鶴その他合計 35 人の議員と講師 4 人 セミナールーム使用料として 6,250 円	

— 領収書等貼付欄 —

領 収 証

No. 

富士宮市議会 令和 様

金 額				¥	6	千	2	5	0	円	-
-----	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---

但し セミナールーム使用料として


上記の金額正に受領致しました

2021年 5 月 21 日

現金 ¥ 6,250-

小切手 ¥

手形 ¥

 富士川楽座

富士川まちづくり株

〒421-3305 富士市岩淵1488番地
TEL 0545-81-5555 FAX 0545-81-5666
 収 入
 印 紙


社印及び振替印無きものは無効です

支 出 伝 票

項 目	資料購入費
金 額	6,503 円
内 容	図書購入費
目 的	調査研究に必要なため
支 出 先	京都大垣書店
支払年月日	2021 年 6 月 29 日
その他特記事項(参加者・人数等) 森川海の水系-形成と切断の脅威 宇野木早苗 1冊 6,050円 <div style="text-align: right;"> 配達料 453円 <hr style="width: 100px; margin-left: auto; margin-right: 0;"/> 合計 6,503円 </div>	

— 領収書等貼付欄 —

別紙のとおり

注文番号 [REDACTED] の領収書

このページを印刷してご利用ください。

国工事市議会 令和 様

発行日: 2021年7月6日

注文日: 2021年6月28日

Amazon.co.jp 注文番号: [REDACTED]

出品者の注文番号: [REDACTED]

ご請求額: ¥ 6,503

2021年6月29日に発送済み

注文商品

1点 森川海の水系-形成と切断の脅威, 宇野木早苗
販売: 京都大垣書店オンライン (出品者のプロフィール)

価格
¥
6,050

コンディション: 新品

◆新刊書店◆ご注文確定・決済完了後のキャンセルや返品はできません。あらかじめご了承の上ご購入ください。◆送料負担いただきます

お届け先住所:

近藤千鶴
[REDACTED]

配送方法:

通常配送

支払い情報

支払い方法:

請求先住所:

近藤千鶴
[REDACTED]

商品の小計: ¥ 6,050
配送料・手数料: ¥ 453

注文合計: ¥ 6,503

ご請求額: ¥ 6,503

クレジットカードへの請求

[REDACTED] 2021年6月29日: ¥ 6,503

注文の状況を確認するには、注文内容をご覧ください。

支 出 伝 票

項 目	会議費
金 額	24,220 円
内 容	清溪セミナーの研究会にオンデマンドで参加する費用
目 的	「住民主体の地方自治を進めるために」を全体テーマとした本研究会にオンデマンドで参加するため
支 出 先	清溪セミナー実行委員会
支払年月日	2021 年 10 月 21 日
その他特記事項(参加者・人数等) 近藤 千鶴 オンデマンド参加費 24,000 円 手数料 220 円 <hr/> 合 計 24,220 円	

ご利用明細票

お取扱目	店 番	お取引内容
0-10-21	██████	カード送金
記 号	番 号	
██████	██████	
取扱番号	お取引金額	
██████	*24,000	
	残高	
	*8,246	
セイケイセミナー ジュウコウインカイ タイヒ ヨウ ヤマト 送金料金 *220円 振込予定日 03-10-21 フジノミヤシキカイレイワ コントウチツ ル		

ご利用いただきましてありがとうございました。
 ゆうちょ銀行

No. █████

領 収 書

2021年10月27日

富士宮市議会 令和 様

¥ 24,000

第26回清溪セミナー 参加費 として上記の金額を領収いたしました

清溪セミナー実行委員 █████

〒160-0013 新宿区霞ヶ丘██████日本青年館内

TEL 03-6452-9012 FAX 03-6452-9016

研修参加申請書

		予算項目	会議費
起案	2021年10月21日	決裁	2021年10月21日
所 属	氏 名		備 考
1	令和	近藤 千鶴	
2			
3			
4			
5			
開催日			研 修 名
2021年10月27日～10月28日	オンラインリモート講演会		清溪セミナー 「住民主体の地方自治を進めるために」
研 修 目 的			
住民主体の地方自治について研究するため			

政 務 活 動 費 用

研修報告書

会派名		令和
研 修 年 月 日	令和3年 10月27日(水) 10月28日(木)	
研 修 名	第26回清溪セミナー「住民主体の地方自治を進めるために」	
参 加 者	近藤 千鶴	
研修内容 (概要、特色、 効果、課題等)	10月27日(水) ★講義1 「自治体議会の政策制御」 講師 土山希美枝 法政大学 1. 議会とはなにものか。 議会改革の難所としての「議会報告会」「議員間討議」など心が折れる議会報告会や盛り上がらない議員間討議など問題が多い。 ・新型コロナウイルス感染症など集合して直接対面で話し合う状況にどう備えるかこれからの課題である。 2. 市民にとって議会とはなにものか。政策議会のはなし。 ・何が必要不可欠なのか？課題は無限、資源は有限。とても印象深い言葉でした。 ・政策は、現在から出発し「描いた未来」へ到達するための手段 ・政策議会には直接制御と間接制御があるがなぜ政策議会としての機能が発揮されていないのか構造として行政の「正しさ」を追認する機構としての議会だからである。 3. 市民と議会をつなぐもの ・議会による「政策・制度」の制御は可視化されているか疑問です。富士宮市でも議会基本条例が作成されているが正しく機能されているのか、基本条例との評価との比較で考えることも大事だと思いました。 また、実績をあげ、周知するという活動を積み重ねていくしかないと思います。 4. 議会は「わがまちをよりよくする」ことができるか。 ・心が折れる議会報告会や盛り上がらない議員間討議を乗り越えなければいけないと実感 ・何のための話し合いか、誰のための話し合いかをよく理解し、話し合う事そのものを目的にできるようにすればいいと私も思いました。 ・コロナ禍と議会活動において、対面で話し合えないことは互いの思いや立場を理解しえないこともあります。ICT、ITを使い映像化することはそれなりに代替できる気がします。また、わざわざ指定された場所に行くより自宅でいて話し合いが持てることはこれからの市民との交流の選択肢として受け入れられるものだと思います。	

★講義Ⅱ 「我が町の政策をよりよくすることができるか。」パネルディスカッション

講師 取手市議会事務局次長 岩崎弘宜氏

取手市といったらコロナ禍でICTを用いた議会活動が全国的に評価され、マニフェスト大賞でも1位の市ですので大変興味深く拝聴しました

取手市は女性議員が多く、女性議員による意見交換会などが行われうらやましい限りでした。また、議会事務局が多方面に議会の活動などを説明し広報しています。そこに議員がともに活動し、議会事務局と議員の絆が強くお互いの力を最大限に活用し、議会と住民の距離が近く、身近な議会にむけてともに力を合わせている姿は地方議会のあるべき姿です。

素晴らしいと思います。富士宮市も事務局と議員が力を合わせられたらいいなと強く思いました。

また、ICTを用いた取手市議会の取組が素晴らしい。

オンライン会議をはじめ、現地調査や災害有事への備えなど完全なペーパーレスを実行しています。

特に各委員会の置ける審査採決は SideBook 表決システムを利用、会議も提出予定議案説明などオンラインでやっています。

災害等有事の際、タブレットで現状写真撮影で画像をデジタルマップに落とし込んでいます。オンラインを使った市民との意見交換会など、本当に驚きばかりです。予算や決算書などすべて紙配布を廃止。年間5万枚の削減。これが普通にできれば、業務量や経費削減になります。まずは「やってみよう！」の気持ち、なんといっても最後は「議会愛」が成功の秘訣だそうです。大変参考になりました。裾野市で取手市議会事務局の方とお会いする機会があったのですが、コロナ禍で中止になってしまった経験があったのでお話が聞けて良かったです。

○桂睦子茨木市議会議員

茨木と聞くとすぐ県を思い出します。しかし大阪府に位置していたことを初めて知りました。また茨木の感じの中に次が入っており、次なる茨木というブランドイメージロゴがおもしろかったです。

人口は280,00人、高齢化率25%

大阪市内へ電車で18分というベットタウンとして発展してきた都市です。

議員数は28名でそのうち女性が11名でした。維新と公明党が強い議会構成です。

議会基本条例は2012年に制定され、市民との交流会、案内チラシ配布の様子を

聞きました。やはりどこも市民がこの交流会に出てもらえない苦労があることを知りました。

2017年に政治倫理条例を制定しています。また、立命館大学との連携協定を結んでいます。

議会報告会に代わるものとして立命館大学のゼミの生徒に協力していただきふれあい型のアンケートの実施で町中に議員が自ら出ていき設問をし、分析もしていました。

2020年にタブレット配布。コロナ対応として本会議場には定足数を残し、採決時のみ全員参加。議場にはいない議員はネット傍聴。

市議会の特徴として気になったものは絶対的な「正しさ」はないことの自覚。それはよい政策が誰にとって良いのか。多くの市民から「よかった」と言ってもらえることを目指すが、反対する人に理解いただき「しょうがないかなあ」といつてもらいたいという言葉に富士宮市

の仮称郷土史博物館構想を重ねました。富士宮市議会が党派を超えることができるか。首長と行政機関と議会との関係が相関できるか。あるべき議会の姿を目指してしっかり問題と課題が分析できるか考えてみました。この講義を拝聴しこれからの私の議員活動を見つめなおすことが出来ました。

講義Ⅲ 「問われる自治体と国との関係」

講師：谷畑 英吾氏（前湖南市長）

谷畑氏とは個人的に FB でつながっており、大変ユニークで、型破りな市長さんというイメージを持っていました。

本当にいつもチョーネクタイをつけており、当日もチョーネクタイが似合っていました。

数々の市長会の会長をやっており、国とのつながりは大変強く太いものがありました。

市長会の重みを初めて理解できました。全国市長会は 815 の市区長で構成されています。総務大臣を通じ内閣への申し出や国会への意見書提出が可能です。

2015 年に教員定数の確保をしたことは有名です。

また、幼児教育保育無償化にも尽力し、谷畑氏の内閣府への「撃ち方はじめの号令」や「撃ち方止めの号令」のいきさつなどをきき、大変濃いお話をされていました。

たくさんの市長会の方々の努力があり、幼児教育保育無償化が実現されたことに心から感謝しました。

また、出入国管理難民認定法改正についても断念された経緯を聞きました。私も国は生活者としての外国人という視点が欠落していると感じました。労働力確保政策なのか、移民確保政策なのかははっきりしていません。その他の特別定額給付金や 9 月入学問題などにも触れ興味深かったです。驚いたのは知事会が 9 月入学を前向きなスタンスを表明されていたのに全国市長会は約 8 割もの首長が反対若しくは慎重に検討すべきと表明されていたことです。知事と各市町村長の意思疎通ができていないことの現れです。コロナ禍の対応で精いっぱいだったことが考えられますが、私的にはコロナ禍だからこそ、できる要素はあったのではないかと残念に思いました。

まとめとして、谷畑氏がおっしゃるには「各省庁の政策能力が低下している」と言っていました。地方議会として、超党派で自治体を超える連合組織を作れば、国に対して政策要求できることが可能だと言いましたが、我が富士宮市では高いハードルです。

是々非々の政治が求められていると実感しました。

10月28日（木）

講義Ⅳ 「コロナ禍から見えてきた国政と地方自治の新たな役割」

講師 福岡政行氏

危機管理の原点として

伊豆大島三原山噴火と浅間山荘赤軍事件をあげておられました。

浅間山の事件の裏話など大変興味深かったです。私が丁度高校生の頃でしたのでその当時を思い出しながら拝聴しました。

また、国コロナ感染症対策に対して、テレワークの推進の中で通勤電車の問題をあげ、説得力のある話をされていました。

また、地方の自治体の決断を例にあげ、小池都知事や松坂市長を挙げていました。

合併をしない宣言をした福島県の矢祭町の事を説明していましたが、私はその矢祭町の町長と個人的な付き合いがあり、接点があり、懐かしい気持ちで聞いておりました。もったいない図書館の話はよく聞い

ておりました。しかし、交付金をもらっていないのならわかりますが、果たして合併をしないことで自立したと言えるのかいつも疑問に感じていました。しかし、人件費が10%とか、まちの職員の家が行政の窓口になっているなど聞いていましたので小さい行政ならではの政策は富士宮市にはできないことです。平成の合併がもたらしたものは何かと改めて思いました。

豊田市といわき市の人件費の比較で、人件費がこんなにも違いがあることが信じられませんでした。とにかく人件費が占める割合を富士宮市も真剣に取り組まなければいけないと実感しました。比べてみようと思いました。

いろいろコロナでの財政支出で国の財源不足 1,000 兆円国債残高になってしまい、恐ろしいと思います。

また子供たちが引きこもり、テレビゲーム、パソコンにしがみつき、ワクチンの接種から非正規労働者 2000 万人からさらに増えるなど自治体の役割は大きいし、これからを予測し、対策を練っていかねばいけないと強く思いました。

講義VI 「ぼくはミドリムシで世界を救うことに決めました」

講師 出雲 充氏 (ユージェナ代表取締役)

ミドリムシという存在を私は知りませんでした。一粒ですべての栄養素が取れると聞いて大変興味がわきました。海草でわかめの味がするそうです。ミドリムシは光合成をする植物ですが動物のように動いていて両方の遺伝子をもっている、59種類の栄養素が入っていて、このミドリムシでしたら昔訪れた栄養失調のバングラデシュの子供達を救えると思ったそうです。バイオするのに大変難しく、太陽の光で増えます。すべての動物がミドリムシを食べるので、バイオが難しく、日本中の先生に指導していただきこのバイオの方法を達成しました。これは量が大切で、たくさんの量を生産しないと何もできなく一年間で100トン生産しています。そうなるといういろいろな可能性ができ、100トンあると研究もできます。食糧不足で困っている人が16億人いる世界でこのミドリムシが世界を救えるのです。さてこのミドリムシを販売する会社を500社訪ね、すべて断られましたが、伊藤忠商事が501社目で初めてこのミドリムシを販売してくれた結果、世界中で注目し応援してくれました。その結果ユニコーン1000億円の会社に成長しました。諦めない信念を感じました。

また、世界での日本の企業や経済の事にも触れ、日本は韓国やギリシャにも労働力が落ちるそうです。変わらない日本の現状を知りました。経済活動に主たるプレイヤーとして参加できない、選挙に行けない学生の悲鳴を訴えていました。この会社は「最高未来責任者」となづけて18歳以下の子供達を募集し、会社の役員に2人しました。500人以上の子供たちが応募してくれたそうです。一部上場企業のユージェナの役員として採用されました。すごいことです。その二人は女性でした。お二人の女性は今現在会社に女性の視点で提言しています。政治の世界に子供の意見を言うていくのは難しいですが、会社がアポイントをとり、現役の政府の役人に声を届けています。信じれる大人がいる代表です。信頼社会さえ築けば、若者はなんにでも挑戦でき再生できます。

信頼の築き方がすごいと思いました。奇跡にたどり着くまでどうしたら続けられるか。若者を勇気づけられるようなメンターとアンカーが必要だと！

出雲氏にとってのアンカーは世界の子供達を貧困から救ったムハマド・ユヌス先生でアンカーは先生からもらったTシャツでした。

ここぞというときに若者が夢を忘れないでいられるものを与えてほし

い！

そうすれば、若者は希望をもってやっているとどこまでも次の世代に目を向けている姿は本当に絶賛できるものです。

私はとても感銘を受け、ユーグレナの会社のミドリムシのサプリメントを買いました。

私も次につなげていけるような人材になりたいと切実に思いました。素晴らしい講義でした。

講義VI 「持続可能な地域社会と地方自治」

講師 谷口信雄氏

気候変動は、人類の生命、財産、健康の問題であるので、持続可能社会へ転換が必要。人類は今まで持続不可能なシステムで発展してきた。しかし、自然の摂理に反してき、取り返しのつかない状態になったらおしまいです。大幅かつ急速、かつ持続的な温室効果ガスの排出削減、二酸化炭素の排出量ゼロを目指すことが必要です。富士宮市もゼロカーボンシティを宣言していますが、これはもう義務化されていきます。世界では脱炭素化が大きく動き出していますが、清溪セミナーの参加している議員の自治体でたった一人の自治体しかゼロカーボンシティを宣言していなくて富士宮市は進んでいるのかなと首をかしげてしまいました。鳥取県の例をあげて説明してくれました。1兆円を超えています。エネルギーに支出しています。エネルギーは地域から取り出す。鳥取県には再生可能エネルギーの開発のポテンシャルが大きくある。富士宮市は水力・バイオマス・太陽光などある方だと思います。

外に売れるエネルギーがあります。エネルギーと地域経済との関係をしっかりと打ち立てるべきだと思います。また、秋田県は風車と太陽光を作りました。民間と市が出資してエネルギー事業を起こしました。条例を自治体で作ってその活動を加速させていくのが議員の役割だそうです。自治体が課題に対しての問題解決し、そして国を変えていく気概でやらないといけないと説かれました。まさしく地方創生です。

持続可能なエネルギーを進めていくときに風車は鳥や自然破壊につながるし、太陽光のパネルの最終処分が決まっていないとの不安が参加者からでていました。生物に与える影響で一番大きいのは気候変動で、全生物と鳥とを比べ、鳥だけという話にはならない。

また、最終処分の太陽光のパネルの話ではパネルの研究がすすんでいて、廃棄物に関しては新たなパネルの発明ができ、日々進化している。といわれていました。とても腑に落ちた話でした。私たち議員がしっかりと質問に答えられるだけの情報をもっていなければいけないと言われていました。本当に反省するところです。この講義も目からうろこでした。